



KYOTO SEIKA UNIVERSITY 2007

京都精華大学

人文学部

環境社会学科
社会メディア学科
文化表現学科

芸術学部

造形学科
素材表現学科
メディア造形学科

デザイン学部

ビジュアルデザイン学科
プロダクトデザイン学科
建築学科

マンガ学部

マンガ学科
アニメーション学科
マンガプロデュース学科

EX-LIBRIS-SEIKA



010402661

001 ● CAREER DESIGN BOOK
精華大生の進路と就職

- 018 刻み込まれた「自由自治」の精神
—京都精華大学の教育の原点はここに存在する
- 020 CONTENTS
- 022 学部・学科構成

● 人文学部

- 026 行動する人文学へ
- 028 とともに学び、触発しあう
—人文学部の学生と教員の対話
- 032 環境社会学科
- 038 社会メディア学科
- 044 文化表現学科
- 050 人文学部 学部共通プログラム
- 051 目覚める
- 055 体験する
- 061 表現する
- 065 人文学部で資格をとろう
- 066 卒業論文・卒業制作
- 067 学部共通科目
- 068 人文学部教員紹介

● 芸術学部

- 074 芸術学部の構成
- 075 芸術学部の特色
- 077 造形学科
- 078 洋画コース
- 082 日本画コース
- 086 立体造形コース
- 090 造形学科教員紹介
- 091 素材表現学科
- 092 陶芸コース
- 096 テキスタイルコース
- 100 素材表現学科教員紹介
- 101 メディア造形学科
- 102 版画コース
- 106 映像コース
- 110 メディア造形学科教員紹介
- 111 芸術学部教員紹介・学部共通科目

●カリキュラム・教員など掲載情報は現在実施予定のもので、変更になる場合があります。
●インタビューなどの在学生・卒業生の学年・プロフィールはすべて取材時のものです。
●デザイン学部・マンガ学部については、改組前の2005年度以前に入学した、芸術学部デザイン学科・マンガ学科の学生・卒業生の情報が記載されている場合があります。

● デザイン学部

- 114 デザイン学部の構成
- 115 ビジュアルデザイン学科
- 118 グラフィックデザインコース
- 122 イラストレーションコース
- 126 デジタルクリエイションコース
- 130 ビジュアルデザイン学科教員紹介
- 131 プロダクトデザイン学科
- 134 プロダクトコミュニケーションデザインコース
- 138 インテリアプロダクトデザインコース
- 142 プロダクトデザイン学科教員紹介
- 143 建築学科
- 146 建築コース
- 150 建築学科教員紹介
- 151 デザイン学部教員紹介・学部共通科目

● マンガ学部

- 154 マンガ学部の構成
- 155 マンガ学部の特色
- 157 マンガ学科
- 158 カートゥーンコース
- 162 ストーリーマンガコース
- 166 マンガ学科教員紹介
- 167 アニメーション学科
- 168 アニメーションコース
- 172 アニメーション学科教員紹介
- 173 マンガプロデュース学科
- 174 マンガプロデュースコース
- 178 マンガプロデュース学科教員紹介
- 179 マンガ学部教員紹介・学部共通科目

● 全学共通

- 180 学外実習
- 182 国際交流プログラム
- 184 文部科学省「特色GP」に2年連続で採択
- 185 精華大生の生活案内
- 197 開かれた大学
- 203 施設と環境
- 212 京都精華大学の教育理念とあゆみ
- 216 京都精華大学へのアクセス

京都精華大学

Kyoto Seika University

京都精華大学は

人文学部、芸術学部、デザイン学部、マンガ学部の
4学部で構成されている。

この4つの学部は

「表現」という共通の基盤の上に成り立っている。

人間を取り巻く世界への確かな視線と、深い理解から生まれた自分だけの考え。
それをかたちにして人びとに投げかけ、未来を築くこと。それが「表現」だ。

京都精華大学は、「表現」を通じて
新しい社会と文化の創造をめざしている。

人文学部 Humanities

環境社会学科

社会メディア学科

文化表現学科

芸術学部 Art

造形学科

- ・ 洋画
- ・ 日本画
- ・ 立体造形

素材表現学科

- ・ 陶芸
- ・ テキスタイル

メディア造形学科

- ・ 版画
- ・ 映像

デザイン学部 Design (2006年4月開設)

ビジュアルデザイン学科
・ グラフィックデザイン
・ イラストレーション
・ デジタルクリエイション

プロダクトデザイン学科
・ プロダクト
コミュニケーション
デザイン
・ インテリア
プロダクトデザイン

建築学科
・ 建築

マンガ学部 Manga (2006年4月開設)

マンガ学科
・ カートゥーン
・ ストーリーマンガ

アニメーション学科
・ アニメーション

マンガプロデュース学科
・ マンガプロデュース

大学院 Graduate School

人文学研究科

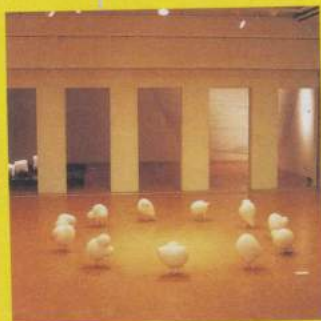
芸術研究科

開かれた大学



京都精華大学は“開かれた大学”だ。
クリエイターや文化人を招いての公開講座、評論誌の出版、
市民も参加できる研究機関、そして地域と連携した取り組みなど、
社会へ発信し、社会と結びついた、
多岐にわたる活動が行なわれている。
精華の活動は大学内だけにとどまることなく、
つねにあらゆる人びとに開かれている。

CULTURAL ACTIVITIES



カルチャーリーダーが講師になる

精華には、さまざまな分野で活躍する著名人が講師としてやってくる。授業だけが学びの場ではない。

CULTURAL ACTIVITIES



リリー・フランキー

イラストレーター／作家

「夢」を通して語られた
リリー・フランキー的哲学

最近では自伝的小説『東京タワー』がベストセラーとなり、活動の場を広げているリリー・フランキー氏は、21世紀の現代における「夢」や「目標」とは何であるかをテーマに講演。数多くの肩書きを持ち、幅広い仕事歴のなかでつちかった鋭い観察眼により人間研究家とも呼ばれるリリー氏が、その独特の人生観・世界観を披露。リリー・フランキー的ともいえる哲学を堪能できる時間となった。

茂木健一郎

脳科学者

最先端の脳科学から現代アートまで、
稀代の学者が語りつくす

素晴らしい芸術や音楽、映画に出会ったとき、我々はそれを美しいと感じたり、深い感動を覚えたりする。我々の脳は一体どのように、それを美しいと感じているのか——。クオリア（感覚の持つ質感）をキーワードに心と脳の研究を続け、また「脳と仮想」で小林秀雄賞を受賞するなど、いまもっとも注目を集める学者が、最先端の脳科学や現代アートなどについて語った。

富野由悠季

アニメーション映画監督

ガンダムから考える、
個性と固有性の重要性

『機動戦士ガンダム』などの作品で知られる、日本を代表するアニメーション映画監督・富野由悠季氏。2005年から2006年にかけて劇場版映画が3本公開され、ますます大きな注目を集めている。富野氏は、これまでのアニメ制作の経験と方法論をふまえ、表現における個性や固有性について、その重要性を熱く語った。講演後には、会場を埋めつくした聴衆との白熱した対話が展開された。

京極夏彦

作家

直木賞作家が導く
妖異の文化と表現

日本、アジアの精神文化史を人の目には見えないカミ、モノ、精霊や妖怪伝承の諸相を通して解析し表現する方法は、すでに江戸中期の国学者、文人作家らにより試みられてきたもの。このような妖異の文化について、昭和から平成の世に蘇生させた表現者である作家・京極夏彦氏が「見えない世界」の文化的実在とその表現」と題して講演。学生はもちろん、遠方からも京極氏のファンが多くつめかけた。

関野吉晴

探検家／文化人類学者

グレートジャーニーに挑んだ探検家が見つけたこと、気づいたこと

関野吉晴氏は、1993年から、アフリカに誕生した人類がユーラシア大陸を渡ってアメリカ大陸に拡散した道を、南米最南端から逆ルートでたどる「グレートジャーニー」に挑み、2002年タンザニア・ラエトリにゴールした探検家。そんな関野氏が30年以上にわたる辺境の旅で出会い、交流してきた人々から学んだことや気づいたことについて講演した。貴重な映像も上映され、臨場感あふれる90分間に。

原研哉

グラフィックデザイナー

有名デザイナーが語る、
感覚の世界地図をひろげるデザインとは？

現代の日本を代表するグラフィックデザイナーであり、アートディレクターである原研哉氏。長野オリンピックの開・閉会式プログラムや愛知万博のプロモーションをはじめ、さまざまな商品デザイン、空間からグラフィックを横断する複合的なデザイン・ディレクションを実践してきた原氏本人の口から語られる具体的なプロジェクトを通して、人間の感覚の地平をひろげる重要性を痛感させられた。

精華は、ひとつのメディアである 本学が発信する多種多彩な講演会

CULTURAL ACTIVITIES

アセンブリーアワー講演会

各界の第一人者が語る、
現場の息吹、時代の核心。

文化・芸術・社会の幅広いジャンルで活躍する各界の第一人者を講師に招き、自由なテーマで語ってもらうアセンブリーアワー講演会。毎回、講師たちの現場の息吹と時代の核心に迫る講演が展開され、刺激に満ちた時間が展開される。アセンブリーアワー講演会は、木曜日の14時40分から16時10分まで。月1回のペースで開催され、申し込みも参加費も不要。在学生はもちろん、市民の参加も多い。



過去5年間のゲスト

- 2001年 信藤三雄（グラフィックデザイナー）／PANTA（ミュージシャン）／やなぎみわ（美術家）／東浩紀（評論家）／藤本由香里（評論家）／高野孟（インサイダー編集長）／高谷史郎（ダムタイプアーティストティック・ディレクター兼映像担当）／秋尾沙戸子（ジャーナリスト）／横口亮輔（映画監督）／萩尾望都（マンガ家）
- 2002年 栗木香歩（小説家）／大竹伸朗（画家）／辻信一（『ナマケモノ倶楽部』世話人）／大島早紀子（日・アール・カオス主宰）／後藤繁雄（編集者・クリエイティブディレクター）／都築響一（編集者）／会田誠（美術家）／シモズ深雪（シャンソン歌手・ドラッグクイーン）／三木聡（放送作家・映画監督）
- 2003年 石橋義正（映像作家）／佐々木敦（音楽批評家）／宇根豊（歳と自然の研究所代表）／北原みのり（文筆家）／川崎和男（デザインディレクター）／コシノアヤコ（ファッションデザイナー）／松井孝典（東京大学大学院教授）／マリー・ヘレン（『シルク・ドゥ・ソレイユ』アーティストティックコーディネーター）／塩田千春（美術作家）／リリー・フランキー（イラストレーター）
- 2004年 井田照一（造形作家）／タナカカツキ（マンガ家・映像作家）／ダグラス・ラミス（政治学者）／木田安彦（版画家）／小里一三（月刊『ソトコト』編集長）／茂木健一郎（ソニーコンピュータサイエンス研究所シニアリサーチャー・東京工業大学大学院客員助教授・東京芸術大学非常勤講師）／片山伸吾（観世流能楽師シテ方）／ヒロ寺平（FM802ディスクジョッキー）／岡本敏子（岡本太郎記念館館長）／富野由悠季（アニメーション映画監督）
- 2005年 北川健次（美術作家）／関野吉晴（探検家）／セイラ・カメリッチ（アーティスト）／ちゃらんぼらん大西浩仁（画家・漫才師）／土田英生（劇作家・演出家）／坂口恭平（アーティスト）／ジャン・ユンカーマン（映画監督）／松本紀生（写真家）／岩井俊雄（メディアアーティスト）／原研哉（グラフィックデザイナー）／玄術宗久（禅僧・作家）

公開講座GARDEN

すべての人に開放された
精華の〈知〉の連続講座

「GARDEN」は、ひとつのテーマについて連続で探究する公開講座。〈知〉を大学から開放する講座やワークショップを設け、各領域の第一人者から少人数クラスで直接指導を受ける形式で実施される。それは、単なる教養講座のレベルを超えて、思想と表現の深化を追求する内容である。おにも、社会人が参加しやすい平日の夜間に開講している。事前申し込み制、有料。



過去5年間のプログラム（抜粋）

- ノンフィクション講座 吉岡忍／関川夏央／久田恵／野村進／迎見庸
- 宗教論講座 笠原芳光／鶴見俊輔
- 英語表現講座 片桐ユズル
- 短歌講座 岡井隆／小島ゆかり／栗木京子／吉川宏志
- 写真講座 八角聡仁／長野重一／金村修／藤戸正人／野村佐紀子／吉野英理香
- 写真撮影講座 高繁豊
- 映像表現講座 井筒和幸／原将人
- 文学表現講座 穂村弘／上野暁／神沢利子／今江祥智／子安美知子／高橋睦郎／工藤直子
- デジタル表現講座 森本晃司／マイク・アリアス／田中秀幸／竹内宏彰／田中栄子／片瀬須直／小黒祐一郎／福山亮一
- アートマネジメント講座 小林昌夫／長谷川祐子／白石正美／伊藤憲夫／建高哲／加藤義夫
- 音楽表現講座 ベルトラン・デュボック／クリストル・シャルル／大友良英／岸野雄一
- アーティスト・ワークショップ 立花文徳
- デザイン講座 佐竹邦彦／小林尚子／寺田未来
- 身体表現講座 ヴェロニク・ラルシェ／坂本公成／森裕子
- 古文書入門 橋本初子
- 木版刷り制作講座 リチャード・スタイナー
- 陶芸制作講座 河原正彦／金子賢治／川崎千足
- はた織り入門講座 木下彩子
- アニメーション制作講座 米正万也
- 音楽体験講座 滝本ひろこ
- 実践英会話講座 ゲン・ヘルヴァンソン

「一日講師」プログラム

市井の人びとが創造し、受け継ぎ、
みがいてきた智慧や技、志を学ぶ

市井の人びとによって、長年にわたり継承、創造された多くの知識・智慧・技術、そして志。2003年度から開講の「一日講師」は、各分野の「職人」の方々に講師に迎えて開催される講義やワークショップだ。京料理・友禅・京人形・西陣織・草木染め・瓦・建具など、その道一筋の職人の語りを通して、伝統の技と智慧を学び、体験できるプログラムである。また、一日講師を希望する方の申し込みも受付中。

これまでのプログラム（抜粋）

- 京料理（おばんざい） 田中久喜（京料理調理師）
- 京表具 井上利彦（表具師）
- 京の型染め技法 松本眞澄（友禅師）
- 京人形師の目から見た日本 木股博（京人形髪付師）
- 草木染め一講義と実習 上田寿一（染色家）
- 祭礼懸装品について 前田好雄（祭禮懸装品研究所主宰）
- 胡談とナレーション 深沢彩子（フリーアナウンサー）
- 瓦ワークショップ 京都府瓦工事協同組合青年部
- 日本茶講座 中尾正史（日本茶インストラクター・京都市茶業組合）
- そば打ち体験 江口正道（『そば打ちの儀』創始者）
- モザイクワークショップ 外村まゆみ（モザイク作家）

マルチメディア講演会

多彩なゲストを招いて探る
マルチメディアの未来と可能性

国内外の映像作家、アニメーション作家、メディアアーティスト、建築家、研究者、作曲家など、各方面で活躍されている方々を、講師として招き、開催する講演会。日々、急速に発展する技術によってめまぐるしく変化するマルチメディアの世界。その未来と可能性を、講演者たちの多角的視点から、よりリアルに探究する。入場無料、予約・申し込み不要。

過去5年間のプログラム（抜粋）

- 中川真「サウンドスケープのかたに」
- 山上千恵子「女性の感性とは？～『おんなたちの映画祭』から～」
- 深谷樹史「デザイン的なアプローチによる新しい映像表現への取り組み」
- ヴィオレーヌ・ドナデロ・スザバリ「『MANGA』en FRANCE——フランスで日本のマンガがうけるワケ」
- C.エックスレイ.H「ハリウッド映画最新レポート2003」
- 三田村光土里「記憶と記録のドラマから生まれるアート」
- 新谷キヨシ・小林正史「原風景、音の交差点」
- 富山妙子・高橋悠治「絵を聴く・音を視る 神話・現代を語る」
- 松本俊夫「温故知新／60年代のインターネットを振り返る」
- アンソニー・ムーア「アンソニー・ムーア イン コンサート」
- ピーター・コーンウェル「コンピュータアートと知覚理論」
- ヲノサトル「音楽プロデュースとテクノロジー」

学外に開かれた 表現拠点とメディア

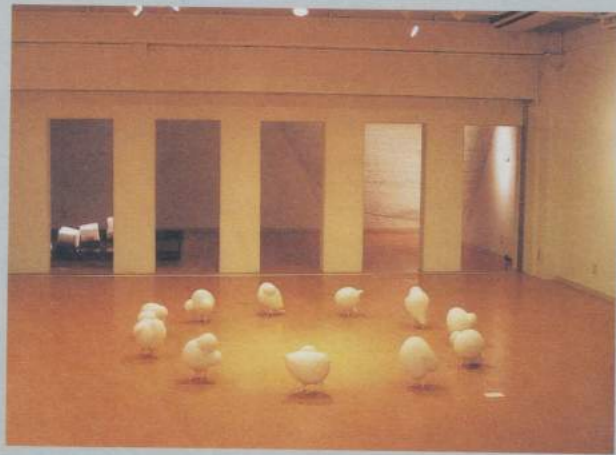
より深く、より先へ——。
表現を見つめ、可能性を広げるべく、
精華は外に向かって、情報を発信している

CULTURAL
ACTIVITIES

ギャラリー・フロール

展覧会から資料の収集・保存・調査・研究。
ジャンルを超えて展開する

ギャラリーフロールは、京都精華大学が運営する大学ギャラリー。1997年10月の開館以降、2006年現在で約7,000点の資料を収蔵している。その活動は多岐にわたり、各種の展覧会、資料の収集・保存、調査研究を中心に、学芸員実習の受け入れなどの教育活動も行なっている。展覧会は、在学生・卒業生・教職員などの作品展や活動発表はもちろん、世界的に知られる美術家の作品展や、貴重な博物資料の展示まで、広く一般にも公開されている。



過去5年間の展覧会

- 2001年 「ギャラリーフロール所蔵品展—洋画と版画を中心として—」／「ギャラリーフロール所蔵品展—浅野竹二/モンゴルの書—」／「春期フィールドワーク報告展：見る・聞く・歩く」／「京都精華大学留学生展：一への回帰」／「ギャラリーフロール所蔵品展—浮世絵・中国年画・マンガ—」／「World マンガ展：ワールドカップと友達」／「KINO VISION：第2回メディア・アート展」／「秋期フィールドワーク報告展」／「金田辰弘展—京都精華大学所蔵作品による—」／「ジョゼフ・コーネル展—箱と映画—」／「京都 墨人—書—」／「くもりのち晴れ—京都精華大学大学院芸術研究科1年生展—」
- 2002年 「企画展「村岡 三郎展」(退職記念展)」／「櫻 忠—MADE IN KOBE L・S・D・F (LIFE・SELF・DEFENSE・FORCE)」(現代作家シリーズ)」／「春期フィールドワーク報告展」／「巫女ときつね：富山 妙子展」／「第8回日韓大学版画展及びアルスター大学版画展」／「土井彩華展」／「キャンベラ美術大学テキスタイル作品展—キャンベラから京都へ—」／「京都精華大学留学生作品展覧会」／「秋期フィールドワーク報告展」／「現代の版画—その多様な表現—」／「京都精華大学大学院芸術研究科1年生25人展」
- 2003年 「ギャラリーフロール所蔵品展 現代美術の視点」／「ごんた展」／「企画展「現代ドイツ版画展」」／「留学生作品展」／「長期フィールドワーク報告展」／「日本・トルコ現代美術交流展「インタラクティブ」」／「短期フィールドワーク報告展」／「白色雑音」／「NO FUTURE」／「フィンランド現代美術展—GOKANN 五感・五官・五換・語感・語幹」／「森田 洋子展 紅彫画」／「京都精華大学大学院研究科1年生展」
- 2004年 「ギャラリーフロール所蔵品展「ジョセフ・アルバース版画展」」／「ケータイ図鑑—モバイル進化論」展」／「版談」展」／「留学生作品展覧会」／「企画展「シュウゾウ・アツチ・ガリバ—展：体位」」／「第16回関西三大学合同建築展」／「フィールドワーク報告展」／「Common Sense—自己から他者へ—」／「イン・アウト／アウト・イン 展」／「企画展「クラウディア・テルスタッペン展：聖なる地」」／「石の脱皮—生と死／ヨーロッパ葛城拓本展」／「京都精華大学大学院芸術研究科1年生展」
- 2005年 「企画展「堀田千春展—When Mind Become Form—」」／「A party—Come as you are—」展」／「目の前を、聞く | 1980年代以前以後」展」／「留学生作品展覧会」／「長期フィールドワーク報告展」／「オクゲともだち」展—軌跡の先に折りを—」／「Come—こどもべやはじめました—」展」／「企画展「ドイツのアニメーション・フィルム展」」／「人かげ」展」／「ショートプログラム報告展」／「ギャラリーフロール所蔵品展—現代美術の多様性」」／「空展」—あなたは空を見てますか?—」／「大学院芸術研究科1年生展」

KINO

一般の書店でも取りあつかわれる
精華編集発行の「文化誌」

京都精華大学情報館が編集・発行する季刊「KINO」（発売：河出書房新社、価格：1200円）は、広く文化・アート・社会をテーマとするワンテーマ・マガジン。京都精華大学の教職員による編集部が、特集テーマ、執筆者等を選定し、毎月異なる特集を組む。その前身にあたる「木野評論」は、1998年より一般書店の店頭にも並ぶ市販誌だったが、2006年度より、さらなる充実のため「KINO」としてリニューアル創刊された。「KINO Vol.1」（2006年4月中旬発売）の特集は「メガヒットの法則 マンガ新世紀宣言!!」。巻頭対談は「21世紀少年」「PLUTO」などメガヒットを放つマンガ家、浦沢直樹と長崎尚志（浦沢直樹の原作者・プロデューサー）。また、マンガ家の二ノ宮知子、羽海野チカ、山本英夫、三田紀房らのロングインタビューも加え、メガヒットの魅力と構造を徹底分析する。この一冊でマンガの現在がわかる、読みごたえのある内容となっている。第二弾となる「KINO Vol.2」（2006年7月中旬発売）では、本学教員、杉井ギサブロー氏と富野由悠季氏の対談を巻頭に、アニメーション表現の未来を特集する。全国有名書店で発売中。



shin-bi

卒業生などのアート作品の展示・販売も。
精華の学外アートスペース

精華の学外アートスペース「shin-bi」は、ショップ、ギャラリー、ワークショップの3つのスペースで構成されている。ショップスペースでは、プロとして活躍する本学卒業生の作品を積極的に展開し、ギャラリースペースでは作家や卒業生・学生優秀作品の展覧会を開催する。また、ワークショップスペース「studioKINO」では、講演会や公開講座、上映会などを実施し、京都烏丸の新しい情報発信基地として注目されている。



新しい知を創造する 情報館・研究機関

精華が設置する、さまざまな研究機関。
その研究水準の高さと研究領域の独自性は、
国や自治体からも高く評価されている

CULTURAL
ACTIVITIES

情報館

図書・AV・博物資料の収集や
情報の発信までを手がける

「図書館」ではなく「情報館」と呼ぶのは、本や雑誌の所蔵だけではなく、「情報」を、収集から発信まで総合的にあつかう施設だからだ。図書をはじめAV資料や博物資料も収集・保存し、公開や閲覧の場も設置。出版、公開講座など広く社会への情報発信を行なっている。「情報館」は建物の名であると同時に、幅広い機能を持った組織名でもあるのだ。



市民に開かれた総合情報センター

情報館の施設や資料は、地域社会に開放されており、年間2万人近い一般市民が情報館を利用している。誰もが図書や音声・映像資料を閲覧、視聴でき、インターネットの利用や、検索端末による館内資料の検索も可能。わからないことはエキスパートのスタッフがアドバイスしてくれる。

メディアラボでデジタル制作もサポート

情報館1Fにあるメディアラボは、高性能コンピュータ（Windows/Macintosh）を備え、学生個人の研究・制作に利用することができる。各種メディアを用いてのデジタルデザイン、編集のサポートも行なっており、活用する学生の姿が多く見られる。

表現研究機構

文字・マンガ・映像の3領域を軸に
新しい表現資源創造への道をひらく

精華の表現研究機構は、現代文明・文化の解明に不可欠な「文字文明」「マンガ文化」「映像メディア」の3領域を軸に、その多面的な学術的価値を再構成・融合することにより、「新しい表現資源」創造への道を切りひらくべく設立された研究所である。新進作家、若手研究者、専門職業人などの「新しい表現者」を育成。さらに、学校教育の再構築や生涯教育という、時代や社会からの要請である「新たな表現能力」をやしなう教育方法の開発を目的に、活動を行なっている。拠点は、比叡山中腹に位置する「京都精華大学観山閣」。研究室のほかにギャラリーがあり、研修や展覧会、イベントなども開かれ、3つの表現研究領域の多様な研究成果を、広く一般社会にも公開している。



環境ソリューション研究機構

環境ビジネス・環境建築・環境マネジメントの
3領域から、自然とまちと人間の明日を考える

表現研究機構に続いて、2004年に開設された環境ソリューション研究機構。精華の環境思想のもとに誕生した同機構は、環境に配慮したまちづくり、政策を提案する「環境ビジネス研究所」、環境建築・デザインを研究開発し、環境アーティストを育成する「環境建築研究所」、環境経営のあり方を研究し、実践する「環境マネジメント研究所」の3つから構成されている。いずれも、他大学では類を見ない精華ならではの研究活動に取り組んでおり、新領域のバイオニアとして各界から注目を集めている。また、人材育成や研究成果の公開に力を注ぐ「オープン・リサーチ・センター」として、文部科学省に認定されている。

京都国際マンガミュージアム

精華と京都市が手を結び設立する、
日本初・マンガの総合的機関

京都市と、日本で初めてマンガ学部を設立した京都精華大学は、日本初のマンガに関する総合的機関である「京都国際マンガミュージアム」を、2006年秋に開設する予定だ。京都市街地の元小学校校舎を改修してつくられる同ミュージアムは、「マンガの研究」「人材育成・新産業創出」「生涯学習」「図書館・博物館」の機能を兼ね、マンガ本などの収蔵数は開設時で日本最多の23万点以上を予定している。